まち活通信

まちづくり活動をお知らせする広報紙

2025 令和７年 1月号 Vol.4

鶴岡市には、町内会や自治会など 463 の単位自治組織と、33 の広域コミュニティ組織(コミュニティ振興会、自治振興会等)があり、地域のまちづくりの活動主体として取り組んでいます。

この「まち活通信」では、地域のコミュニティで取り組まれている活動の工夫や独自の取組みを紹介しております。

今回は、郷土愛の育成と防災に対する取組み、コミュニティ機能の再構築の取組み、心が通い合う町内会づくり、地域資源を活かした組織づくりについて紹介します。

櫛引地域 × 単位自治組織

楽しいをつながりの一助に

下山添地区自治会　区長　蓮池　昇

下山添地区自治会は、旧鶴岡市と接しており、昭和 60 年から進められた住宅造成事業もあって、櫛引地域で最も世帯数や人口が多い集落(地区)です。

造成当初、元村と団地の交流は、地区の夏祭りでの年１回程度の交流でしたが、団地造成 30 周年を記念し、レクリエーション大会や芋煮会を行い、多くの方から参加頂きました。しかし世帯の代替わりやコロナの影響もあり、改めて交流や親睦の方法について、現在模索しているところです。一方で、子どものいる子育て世代では、育成会などの活動を通じて、交流が図られています。

郷土に愛着を

地区では、育成会と意見交換を持ち、小学生の頃から郷土に対する愛着心を持つように取り組みたいと、神社の由来など地区の史跡や歴史をウォークラリー形式で学んだり、地区のお祭りで子ども神輿や相撲大会を行ったりしています。

前者は、内容の関係から毎年行うのは難しいですが、後者は天候に左右されることはあっても、毎年、実施しています。地区内を二手に分かれて回る子ども神輿は、大人も大勢集まり、おひねりを渡す人もいて、大変喜ばれています。また、相撲大会は、地区内の相撲愛好会の方のご尽力もあり、横綱柏戸出身の小学校でも相撲大会がなくなる中で、地区内外の児童からの参加があり継続されていることは、誇れるのではないでしょうか。

安否確認と避難行動を具体的に考える

人　　口：1312 人（住民基本台帳）
加入世帯数：461 世帯
発　　足：昭和 48 年
学区・地区：櫛引西

広域コミュニティ組織がない櫛引地域でも、近年の激甚化している自然災害から、避難所を開設しなければならない事態も起こりうるとの考えから、小学校区単位(避難所単位)での地区防災計画作成を令和 4 年度から取り組んでいます。この広域の地区防災計画と整合性を図った防災計画を策定するため、市アドバイザー職員※1 から支援いただきました。

アドバイザー職員からは、迅速な防災活動につなげるために、住民の安否情報を庁舎へ連絡して欲しいとの話がありました。隣組ごと区域に近い広場などの一時避難場所では、安否確認を行い、市で指定された一次避難場所では、地区の災害対策本部として情報収集にあたるよう検討しました。防災計画は作って終わりではなく、防災意識を保っていくために定期的な見直しも必要だと思いますので、引き続きより実用性のある計画となるよう検討していくこととしています。

次世代へつなぐ

今後も地域住民のつながりを保ちながら、小さい頃から子ども達に地区事業へ参加してもらい、楽しいと思う記憶が残れば、地域に残る一助になるのではないかと取り組んでいるところです。

地区文化祭で紙飛行機やホバークラフトの作り方を学ぶ

※1 地域の課題解決に向けた住民主体の地域づくり活動を推進するため、地区の要請に応じて配置された市職員が情報提供や助言等の支援を行う。

笑顔でずっと大泉

やれるかやれないか。やりたいの一念から

朝日南部地区自治振興会　事務局長
山口　弘美

朝日南部地区自治振興会は、朝日連峰の懐に抱かれた鶴岡市の最南端に位置するコミュニティです。令和 6 年 3 月に「大泉地域ビジョン」が策定されました。平成 30 年に下田沢自治会で開催した地域の 10 年後について語り合うワークショップ「おらほのしょ、ろんろんでゅう（活発に話し合うの意)」を皮切りに、実に 6 年の歳月を要しました。人口が減少しても住み続けられる地域づくりを目指した人口シミュレーションの実施、ワークショップの開催や策定委員会の立ち上げにより協議を重ね、ようやく策定に至ったものです。地域の現状をつまびらかにし、人口を数値化することによって、地域課題をより“自分事”とする良い機会になりました。

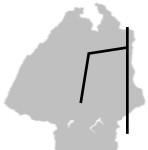
まずはやってみることに意義がある

地域ビジョンでは、「笑顔でずっと大泉」をテーマに掲げ、大きく 5 つの取組みごとに具体的な事業計画を立てました。

今年度は手始めに「コミュニティ機能の再構築」の取組みの中で、従来集落ごとに開催していた夏まつりの一本化に着手することにしました。楽しいことから始めたい。単純な発想ではありますが、果たして人は来るのだろうか…不安を抱えながらも、「まずはやってみることに意義がある」と励まされ、開催に向けて動き出しました。

何から何までが初めて。規模感、各ブースの設定など、祭りそのもののイメージが全くできない。テントは何張り必要か、焼き鳥は一体何本準備すればいいのか…。手探り状態が続く中、5 月初旬に役員を中心とした打合せを始め、実働部隊となる実行委員を含めた拡大会議を何度も重ねて、計画を詰めていきました。

資金繰りも難航しました。予算立てについては、当初は自治会からの負担金を想定していましたが、小規模集落からは負担が厳しいとの声が上がり、協賛企業を募集する運びとなりました。その結果、11 社から協賛をいただくことができました。



朝日南部地区
大泉・大鳥の
2 地区 10 集落

人　　口：381 人（住民基本台帳）
加入世帯数：158 世帯
発　　足：平成 26 年
学区・地区：朝日南部地区

心躍ったプレ会場設営

開催の 1 週間前にはプレ会場設営を行い、やぐらを組み立て音響を設置し、提灯を吊り下げて点灯確認をしました。長らく各集落の倉庫の奥に眠っていた提灯が、久しぶりに日の目を見ることになりました。朝日音頭が耳に流れ、提灯の光が目に入る。五感が刺激され、心躍りました。わたあめやかき氷のブースも初めての経験であったため、参加者主体のセルフコーナーとし、スタッフ自らが負担感なく楽しめるような環境づくりにも努めました。

祭りは地域を活性化する

大泉地区の人口は 7 月末現在で 329 人です。8 月 10 日開催の夏まつりに向けて、200 人を想定して準備をしましたが、蓋を開ければ予想を上回る 250 人の来場者‼こんなに大勢の人を見たのは本当に久しぶりでした。盆踊りには 100 人以上の踊り手が参加し、3 重もの人の輪には圧巻でした。協賛企業のおかげで、夏まつりの最後を飾った大抽選会も大いに盛り上がりました。コミセンだより第 110 号「台風の進路しんぺだ」（毎号タイトルに住民の声を起用）では、「人！人！人の輪！」として報告しました。人が繋がり、人の輪ができる。「祭りは地域を活性化する」まさにそう実感しました。

賑やかさを一層引き立てた盆踊り

「今日（来て）よかった」を目指して

さて、夏まつりの次ですが、地域課題解決と並行して中山間地域の良さを活かす事業提供を計画中です。地域の皆さんの 24 時間のうちの数時間をコミセン事業に参加していただき、「今日よかった」を感じてもらうことこそが成功のバロメーターだと考えています。目下試行錯誤中ですが。

つながりが消えない町内会を目指して

砂田町町内会　会長　中村　健一

砂田町は、鶴岡市の北部に位置しており、西に旧国道7号線、東に大西町、北にみどり町、南に淀川町に囲まれた区域で大字新斎部字砂田一部を中心に、大字布目字東通一部が統合した町です。

昭和51年4月に発足し、当初の世帯数は115世帯でした。朝暘第6小学校の創立と同時に、子供育成会、一中会、婦人会、老人クラブ、安全協会支部などの団体も誕生し、公民館が建設される昭和61年7月までは、南岳寺を借用して活動していました。

なり手不足と個人負担軽減のための規約改正

やる気がある人ほど町内会役員になることを重荷に感じる傾向があることから、なり手不足と個人の負担を軽減するために、4年前に町内会規約を改正し、役員の任期を2年、最長でも6年としました。また、役員改選時には声かけを行い、部長、副部長に加えてサポーターを選出してもらい、夏祭りなどの町内会行事に協力してもらっています。また、役員選考会に女性を起用し、女性の目線で女性役員を選んでもらい、徐々に役員を担うことへの抵抗感を感じなくなるように努めました。この仕組みを設けたことで女性役員の割合が増えてきました。

地域イベントを通じてのつながりを大切に

地域全体で協力し、様々なイベントを通じて住民のつながりを深めています。夏祭りは、役員会、隣組長で企画し行っていましたが、保護者世代である育成会、中学校会、中学校会OBOGも会議に参加してもらっています。中学校会を卒業すると一度切れてしまう親同士のつながりも、イベントを通じてつながるようになりました。保護者世代の「やらされる感」を払拭するために企画提案の場を設け、提案したことが採用してもらえるという期待感が積極的な参加につながってきています。子どもが楽しめる夏祭りの催事の1つとしてアームレスリング大会を企画提案してもらい、当日は子ども達の奮闘する姿を見て会場が盛り上がりました。また、夏祭りの役割分担では食券と商品の引き換え、神輿運行中の交通整理、盆踊り指導などを幅広い世代に振り分けたことで住民同士がつながる機会となりました。

砂田町
町内会

人　　口：910人（住民基本台帳）
加入世帯数：320世帯
発　　足：昭和51年
学区・地区：鶴岡地域第6学区

夏祭りイベントのアームレスリング大会

さらに、「野菜運動会」の名を持つ大運動会も地域イベントの一環として行っています。この運動会は地域住民が一緒に楽しむことを目的とし、子どもから大人まで幅広い世代が参加できる種目が用意されています。参加者は運動会の1種目に参加するだけで鶴岡市指定のもえるごみ袋いっぱいにじゃがいも、人参、白菜などが入った参加賞がもらえます。運動会終了後には芋煮会を開催し、参加者同士が交流を深める場となっています。

子育て世代への支援

西部児童館の子育て支援情報は第6学区コミュニティ防災センターにポスター掲示され、町内会長に送付されるだけでしたが、小学生以下の子どもがいる家庭を訪問して、希望者に届けるようにしました。情報提供の仕方を見直したことで、つながりができ、ちょっとした相談や意見交換ができるようになりました。子育て世代やその親世代に対して、また、転入してきた方には最初の段階で、砂田町が住みやすい環境であるということを伝え、地域に対する期待を高めることができるように努めています。

今後も、全世代とキャッチボールを重ね、地域全体でつながり続けながら、町内会活動を活発に進めていきたいと思います。

祖先に感謝し 未来へつなぐ

細谷集落　区長　庄司　秀郎

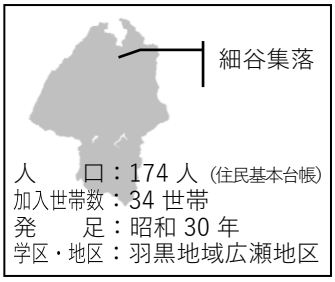
細谷集落は羽黒地域の西に位置し、鶴岡の中心市街地にも近いことから各方面で便利のいいところです。稲作を生業としてきた地域で、34 世帯の小規模の集落ですが、一人暮らし世帯や空き家なども増え、多くの問題を抱えながら維持しています。

「チーム細谷」と「細谷だだちゃ」

集落では、25 年位前から土地改良区の事業の一環で農地・水の環境保全事業に取り組み、「チーム細谷」が発足しました。地域人、他地域で生活をしながら当地域で農業をしている人が構成員となっている集落の 1 団体です。活動には集落の各団体もメンバーとして加わっており、いわば集落全員が構成員となって運営しています。

鶴岡市内各所に特徴的な在来野菜があることを耳にします。白山だだちゃ、民田なす、温海かぶ、藤沢かぶなど、食の宝庫に恥じない名品ばかりです。実はわが集落にも、「細谷だだちゃ」という枝豆が存在しています。年配の方に伺うとずいぶん前からどこの家でも植えていたそうです。それが白山だだちゃのように持続的に発展しなかったのは、稲作に依存していたからではないかと思われます。かといって種子がまったくなくなったわけでもなく、コツコツ作り続けていた家庭もあり、種子をわけてもらい作付けすることが可能となりました。小面積ですが植えて、管理して、収穫し、試食することができました。食べての感想は「うん。うまい。白山だだちゃにも負けない。」と高い評価でした。味は申し分ない。ただ課題はたくさんありました。発芽率がかなり悪く 3 割くらいで、種子を多めにキープしないと持続できない。出荷販売するまでに時間を要するなど。「チーム細谷」が主となり生産活動を行い、ここ 4 年位からようやく販売までこぎつけ、苦労が報われたような気がします。

広瀬小学校の子ども達が体験



人　　口：174 人（住民基本台帳）
加入世帯数：34 世帯
発　　足：昭和 30 年
学区・地区：羽黒地域広瀬地区

今年は広瀬小学校の 3 年生が訪れ、収穫を体験し、取った枝豆をみんなで食べました。子ども達が羽黒にも在来野菜があることを知り、受け継がれていることを学ぶ良い機会になったと思っています。

「細谷だだちゃ」の苗植体験

この「細谷だだちゃ」を通じた子ども達との交流が続き、地域に根づく体験になればと願っています。

農業を通じた地域づくり

実は「細谷だだちゃ」が注目されたのは、山大農学部の江頭先生の目に留まったからでした。私はじめ、地元の多くの人はこのことを知らず、外部から注目されてようやく知ったという次第です。

「チーム細谷」として畑を維持し販売まで作業を行う、個人で栽培したい人は集落に負担にならないようにするなど、集落を基本に考えて続けていけばいいのではないかと思います。農業人口がどんどん減り、若い世代が土に触れることもなくパソコンやスマホに頼ることは、さみしい現実だと思うのです。

この自然豊かな土地に生まれ、祖先からの伝統を受け継ぎ、さらに後世へとつなげることが今生きている私達の使命でもあります。しかし、そのまま受け継ぐことが無理なこともあります。少子高齢化、農業の担い手不足と課題は多くありますが、これからもここ細谷で生活し、何かを求め得ようとする人達に、少なからず住みやすい集落でいられるよう手助けをしていこうと思います。

編集・発行／ 鶴岡市市民部コミュニティ推進課
〒997-8601 鶴岡市馬場町 9-25
ＴＥＬ：0235-35-1203
E-Mail：community@city.tsuruoka.yamagata.jp

藤島庁舎総務企画課　TEL 0235-64-2111
羽黒庁舎総務企画課　TEL 0235-62-2111
櫛引庁舎総務企画課　TEL 0235-57-2111
朝日庁舎総務企画課　TEL 0235-53-2113
温海庁舎総務企画課　TEL 0235-43-2111

まち活掲示板